



著者プロフィール

沼尾将之（ぬまお・まさゆき）

昭和55年9月15日 埼玉県狭山市生。

平成16年 武蔵野美術大学油絵学科卒。

平成21年 「橘」入会。松本旭に師事。

平成23年 第29回「橘」新人賞受賞。「橘」同人。第42回埼玉文学賞受賞。

平成27年 「橘」二代目主宰、佐怒賀直美に師事。

俳人協会会員

〈句集『鮫色』より転載〉〈2018年10月29日時点〉

『鮫色』（自選15句）

沼尾 将之

利根川と荒川の民鰻食ふ

重ね着を重ね着のままむすと脱ぐ

川なりに泳いでをれば巾着田

阿羅漢の衆生に零す秋の水

夜来の雪肘返りに覚めてなほ

犬ぶぐり咲かせ紛れもなき国土

たんぼの架吹くさやうならに代へ

火取虫なれば吾胸に止まり来よ

瘦案山子吾にカインの血の流る

けふの陽の落つる地平や梨の花

沼面揺る冬木の影を骨抜きに

屋根といふ屋根は鮫色東風荒れて

葉桜にすぎ間なく夜の来たりけり

なんとなく南瓜がここを切れと言ふ

名月に水の速さの雲懸かる